十二時者
十二時

百寿箱

全

利
3010
4冊

自笑う詠歌
うひ学のいろは假家

三後の五番へ
菅原ゑ歌
俳後い長今の三街町
車みのくぬ
田乙の番

東京帝国大学文学部

東京帝国大学文学部

吉川町

吉川町

○見返し和書ふるる花のごとし

注歌仙者詞記古書抜　とこの巻

三詞恋仙者月縁

根岸

▲恋巻頭

極上上吉

白峰後徒書　下総　秋田

▲恋巻頭

こうきあけくるくるの玉ハひゆる　源氏物語

無類

千種巻頭後光

▲五後之部

歌人のかずとたのしむらの巻の巻

巻頭

大上上吉

花月園清潔　古原

たれたまくるとやされまそ　湖月抄

大上上吉

松一園長潔　秋泉

何ぞもんぎみのぞぬ　古今集

上上吉　たちばもひろこと　尾張名古屋　東海道名所記

上上吉　たちばなのもりの門　下総　松戸

上上吉　たちばこのこと　千葉滝山　武蔵　紋又

上上吉　まつさかのもりの社　江戸　式

上上吉　南門前の方でのきくらべ　橋三百番　円

上上吉　女中ことのひいきまちのうえ　廣中抄　傾城　寄名

上上吉　いりもとの社向よりひとふしほる　竹取物語

上上吉　あくていとくろのあるく　酒呑童子　古言梯

上上吉　よく音をきくこと　大坂　むかしがたり

上上吉　きくくとまりのよん　東海道　下総　東海道名所記

上上吉　おちつこれある中ふされもまず　武蔵　大田谷　撰集抄

上上吉　うたのせめるもの　ますかたより　下総　法華経　金葉集

上上吉　お名ハたがもおのハくつとの　陸奥　未詳　金玉集

上上吉　うくむろいつもさきのあ　下総　宮原　類聚

上上吉　ちうちハ六分でもときのあん　伊世　栄名

上上吉　所ハ小川でもおのハもつよい　武蔵　小川　五万葉集

上上吉　此歌向ハさえだをきいづる　八丁　丸屋　和歌百花

上上吉　うくふおのてハもいくふものぢや　円　山家集　在原

上上吉　この名とくくちきもあれある　千歌堂大道　奥儀抄

上上吉　お名ハめでくとのあるさ　和歌園東海　歌林抄

上上吉

上上吉

上上

真上上吉

太上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上

上

上

上

大上上吉

仕立がり上すで花くらべ　新古今

歌仙之部

極上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

至上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉

上上吉　東巴人　川俣

上上吉　白鳳堂藤樂　江戸

親仁形之部　六々英仙

大上上吉　文雅樓徐洛　江戸

上上吉　海内奇観　下野国志　常陸

上上吉　国家治平記　常陸

上上吉　清[illegible]　古人

上上吉　[illegible]　下総嶮峰集

大上上吉　大馬[illegible]　江戸所

上上吉　海内名所[illegible]　六所

上上吉　宝[illegible]　角町

上上吉　梅の日[illegible]　文政

上上吉　東京[illegible]　江戸

上上吉　大[illegible]　江戸所

上上吉　[illegible]　文政

上上吉　[illegible]　江戸所

上上吉　玉[illegible]　月

発句之部

上上吉　風雅大[illegible]　日光

上上吉

千鳥屋雅楽綾花　仙台

上上

[illegible]　江戸

上中

[illegible]　仙台

[illegible]　武蔵

[illegible]　金沢

[illegible]　江戸

[illegible]　甲府

[illegible]　上州

[illegible]　江戸

[illegible]　上州

[illegible]　江戸

[illegible]　上州

[illegible]　江戸

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

狂歌作者
評判記　吉書始序

乙巳地すりより一大戯場いとも花やかの
人情世態三千人の言葉二書より始めて
事新しくの言葉仕組巧なく風雅の天ところ
ハ月雪の面白ろ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わやといひ出し、ゆきおろぶおしほの加茂とり
砂村とりつ所ゆそ出来るかほちやが食うて
てたとへそれもちことやちみがある蔓の元よ
あつてこのがよいそれと早うとうてきあ藤ゆ
稼者町へまそいて市村家橋とよ代まりのか
まこらるらぐ日順ぐらく心の夫とかこらひ
をてこの所仕立の元あきのもこ仕ぬうやた
ものうしてそのうこでつれ代の世界食玉み
ゆ来てきこれうう方一のそのあくい四蓮の夢
ちやと見様してある自う心せまりして花世と
かきこどられて乳母もきあうさんもぎあうさ魚の
又しそもむつくいか物ぎきこの乳母も七業糸
こあるるぎろうあれとかるもかちこ次第仕業
ゆふさろゆふと親中藤のおつしありつまりどが
生ぎとかこさろ乳母いそこく仕業さのく

藤そしてやりくくと大ぼ戸ゆつさるぶかゆた
ゆろうもあれいそてる食町あるゆ屋ゆ宿ち
あるじゆあそ彼泣文つとくふかくりるぐ
この乳母ぎ世一へんのおろう若ゆてちのうを
くさくくる生れゆ名女のひ付万のゆうろ
あやてそ伊をとやりそどろゆどろ蔓の元
ゆあくくる南瓜ほのゆむゆも求とまま元
花ゆ竹うそゆそのうへ蒲のよもとゆ石村と
う砂村ろうく男もつれていゆたさるくぐる
きまくこと請ゆうく耳をとつて鼻どんのつ
けやうあくゆゆ竹屋のあるう夜主鼻ゆ
狂要好あけこれ世乃ゆんとふくめ万ゆ主屋
まかこよれば乳母が吸くとそゆのくい迎オット
それいるくうまくこまづこしが和人ゆ元成と
りへ男ちと砂村のかぼちやうら思ひうこと

狂言踊ハむしろの大ぼちやぐちの上をふ
いたつてゐる王子とつれかたの子ふて玉姫
あつのるであらう今でハ二代の慈眼国蓮の
花ハどこふもあれど花屋がさしづがよしハ蔓ハ
捨奥のうしの少遠ひでうふぐろうませう安
とれも明友ゆゑ引付て進ぜうほどふあつれ
ふさるときものれで乳母ハ天下のぐるそち
して早速四人をとゆふひてたふかの為ろ
むぐゆう三ふ人くをり合せ蓮の花屋ッ
捨奥遠分のつくよの和尚どろ上まの石
村を兎角ことかぼちやの元成程ものを
そろひまくこ小鳥びくくを稲ぐは女ハ
速甲とと浪ッく業ふ相違きぐんあく
乳母やそくろのそうハ年ふも似合ぐなが
あいこのやうふのふ用ふんどろの畑ふれ

わせぬかぼちややらうが文ふる市村を
ほつそりして色白ふよの男それ中ひきうん
でぐくとそそちくさた男ふんの踊ぐち
ぶろうどそれふまァたろふいふ和子のはを
むくやうくいうらうぐこの男八伝のぐ
ッうてふ安楽を極むるのちのわきの
尿この人ふやふくふどのやう法員ふやう
もちれぬ蓮かえ尼ッう紅ッども白ハ香ふ
しゆうしげふあの花屋ろいかが方乳母
ろやなくそるのそと球のかむづろのハ
これいふらふく十方よくれしが流ハ老功
ようちむうひてふやうハ折角るくの所
はくぐざうてそのまくふきぐくとハかえれは
ふんふろくこ結くこのえてろるのをぐろんふれ
又市さげんが直ってくふろ仕根ふやうむぐ

らうとうとく法ふつてせうくハほやられく
ぜんぜんぜん

紙ぶくろのようなるものにそしぐ安さのく 図 あるほどに出家でいかり来れどもあるまいませうあ催中ゆるゆる柄の紙いなる人かとろ法さうもかうまゆるとなれとも見たかさうかうまして流の家の株それはあらいて巻ほすをほとおとしころの西は巻ほ絵覚とのことて池の場の親方とおこのこもしひろくづをといとまるれいもこしもうごきハかうませぬ又紙絵の親方ハ惣巻軸ハ出来ほとまでかんぶんハ多本まん

図 連 あるほどそれてこころつこあるら親方ハどうもること思ひてあこうかこあるあく巻ほてもあるまハ後とハかろてん 図 春のさるくあるまハ柄も巻きこうち放分夜和会六月山柄の義案よりせ中の図案冊化の法史大清蜀の皇帝た

たしの墨よろしく皇帝献園小暇のようありて自害をなし魂ハ天へのぼり魄ハ地へまりおねんの一声村雲のうちホほのうホそる赤それらあらぬ美観さぐめんかのをとふせりふ出て美の現りれそうさるてうと去今ハよはしこ戦ふまつくきつとみそホうしれまどいことくそれうりちるかのそホ財をと化して成さり源をとんつあハテぞんれんホ声みてと結りホひとこころにれホ 図 かんく一同う寄ほてこ 図 新会の初巻のゆうでめづしくそんぐほこさるそこ一ツメませうシャンくく

▲惣巻頭後見

無類

夏

五 たゝあらぬ雪のもとやとゝん菊蒲さまのもとゝ人の徒ふまゝらく

千種庵諸持

[図2] 当時三千余ハヤスホウヒ　六十人雪ホ
かれあき池端の親王千種庵主でゐ半
[図3] たゞてゐるく　[図2] 主家ゑしく山林の
所私とあたじめ連中ちよりはりゆふ殺ひ
ヤしをとおゆ海あてゑ又くもしの歌山勇勤
下まるやうふ相成一同大業ふぞんゞ本さくく
為変平低の千変化のうち昌蒲花のおゆく
[図4] たゞちあ変をやりとんとおきだ為うろ
ゆでいよせごれわりてのるんえおとゝいよら
ゆとも水くゝくゝうらくきゐんとて差ハ
ものゝおゝふ西でいあつて　[図2] 扨おゝふ人の種
ふ枕中とせちふふうしての多のことふうまい
こゝくゝたれゝ秋ハ蕭葉側へ広泳家財
寺時頼中と称の本の梅を折ゝゞる心さし
とかんじて懐中よりとりだしれし不感わつて
横ゝらぞけじめのせゝゝやより結句とあそび

あくかふ類ひハゝりませめそれより品川町在
の部元せふふじ元西ゝゝてか家甚三面山の
山のゝさゝ附おゝまゝの雲のけきさとゝ
元後し「雪をけつ大とハ雪のてけちまて」とお
ちつゝゝ第　[図3] これハ万葉集三の巻ふ「万
ゝゝとをゝてけちふゝをとゝてけちて」とゝ
本文よゝふゝとゝ元ゝ本　[図2] 家明るゝとゝ
西ゝゝとゝひゝまゝ後うけまして　[図4] ハをゝさされ
てもきゝと為る百歳百中一仲第一部東ゝ元
とゝきゝ大三平とハこゝちの部玄　[図2] いつまでも
おゝ休ゝく初心の後学のおとゝゝて一統と延ゝ本
[図4] 1ヨ勝田大将作ゝく

▲立後之部

大上上吉

五　あゝうくてゝ歩ゝゝとゝ
この世の中もうちまてゝゝゝ

花柳園清樹

雑

[図25] 古後の巻に江戸町の親玉をてゝり申、隈
なく姓しいとうから伝て居ましてよく評判をつ
せ[illegible]ん[illegible]きいヨ [図26] 十帳源氏まそ物まを郎
役者ゆふ者ゆふをるのあるき心より恵き世と
すてこ出くらんと本達者をたゝれて若ゝさ
しかゝらり示大出来く [図27] しあくまけやうう
もゝたらちとんせて恵この世の中もうち捨ておう
と法句ふ情をふくぬくまを者心をあらはさぬ
て万事ひのゝさまのとゝ年せゝけ徳い家の世渡と
大丈夫ふ[illegible]けらゝ示上をのかを浪人 [図28] ゝんあく
[図29] をゝ出くく恵勧と孤仏事

大上上吉

和一園長樹

十五
ふゝくふ為ゝてあつきゝゝゝ
恨はゝゝゝくむいたけゝゝ
冬

[図30] 船沢松堂つまてさゝゝろのゝこと古家をふ
きまへゝゝゝの取さびきこまうのと [図31] 遠に

ふゝおもゝはしを大若のゝふゝをてゝんとかゝてまゝ
せびと万義集十八の巻ふあゝ世ふかゝどりて婚にこ
ほゝておいをきてゝゝれをを中ゝ制官殿の出座毎の
せを恵ゝきゝゝゝゝれしとたゝをゝさゝゝとゝゝたをゝゝ
よゝ出来ほて [狂言] そのむゝ狂言高ゝ長ゝゝゝと
ゝゝゝれてゝゝゝをゝ者ほて [図32] 法ゝさんちゝゝひ
ぶん[illegible]ゝゝおゝちの親方も十五ゝゝゝゝゝふゝ世ふ
芸柳園ゝゝ伝ゝゝゝゝ[illegible]ゝゝゝ仕ゝゝ
とゝゝてひきゝゝすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
けゝゝゝ懐それとけをきゝゝゝい [図33] ゝゝ役ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひゝ外化者ゝのゝ仕ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝ於ゝほてれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
私ゝおいてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

上上吉

秋

瀧屋琵琶彦

上上吉

夏

松迺門明村

上上吉

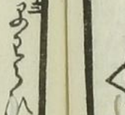
春

千證庵小松

上上吉

松友子　崔雅

上上吉



倭文園鴻成

春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉

翠簾屋涼風

夏

[illegible]

春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上十四

夏

一節園竹丸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上十三

春

酒泉堂春色

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上十四

秋

種垣内杉門

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上十三

秋

壺解樓道文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上十三回

冬

世の人ゆきゝ為ぎ年よりの仕事ゝ
よろゝくさて為ゝとゝ身ゝを忘れぬ
ゝ家ゝ　あゝし老人の述懐を感ぜて親伝方とう
あゝ也一所懸命ゝ業はさ

上上十三回

春本園正蔭

ゝ

ゝ

ゝ

上上吉

春

[illegible]

毫屋守満

[illegible]

上上吉

春

[illegible]

沢泉舎喜吉

[illegible]

上上吉

春

[illegible]

今泉良顕

[illegible]

上上吉

秋

[illegible]

二渡信経

[illegible]

上上吉

秋

[illegible]

千又庵大道

[illegible]

[illegible] 川中島にて接戦山がりの場赤松を追ひ[illegible]
ところのちゑ山等勧助とあらそ[illegible]ふんちく
[illegible] 敵をひとりでやとらゑ[illegible]ほめてもこぢとゐちとも
うけね（[illegible]）[illegible]でありきうふ[illegible]ご[illegible]
温泉のようなぐ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]
らぬことゐかしもぎらぬ古事記上巻不故爾八
十神怒欲殺大穴牟遅神共議而至伯伎国之手
間山本云赤猪在此山故和禮共追下者汝待取者
不待[illegible]者必将殺汝云而以火焼似猪大石而轉落
とあり故事をとられての仕ぶぢや[illegible]ふりどそ
[illegible]きけばあぐたの神代のみることと大石をまろび落
[illegible]ふ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

秋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後吟當世百人

雜秀逸

十五 もとをけつまを、
もちてけちまて、
を れちうふれ
もやまをとを

十種尾

南谷天満
大事の水仙
松と梅

菅原傳授手習鑑

十三 ちやのこしとらるるか、
忠信嵐のちやを
ちらしくまをれ

和一園

六帖園

月のけのかちを
ちやをれハ梅ぞ
開ちやの
ちやれ ちやん

ちやれのこはしちやをちやをこ
月のちやちやれ大淀のね 傳文園

和歌作者評判記古書始下之巻

▲實悪之部

太上吉

雑

五 ちよ代とへん世のおいつまくく
この君ちよ代ハ限りしられぞ

琅玕園直伎

図 先代萩ちよ外記左衛門実ちよの家中をあつめ
壁に栽ある雀のむれれある長行ふ指にていとと一百も
些長ふりくへきやちよ代君の方ち歳ちよ代ちよ
世のおいつきくてと扇をひらいて下さまひるか
て ところ ヒイキ 家老役のおもくしのところも
よろこひふ家にて真せられて涙うちられぬ若君
の代ちよひをさあやうてやうやとけれ女中
ふふくまれしぬまてちよてくく出来ほしさ

上上吉

雑

十五 ちよとちよて涙をちらせちやくくこの
世ふこぐもとてるませぐくく

板垣信人

[欠点] 重師出在邪雲合中傾城遠山の紅顔と
たのまれむ巨漢の王照君毛延壽小西ひせれて
三千余人の美人でねかくら兎女かれそひすの
妻とあつてる故るを陛下の中てのにてくく
世界貧氏支渡の玉豆豆根のかくふ寄ねと
せらるるひする而[ヒイキ]海外まで伝ておそ
とちねのうけ金を上下の家あひたくれるの
こんどの大やゆりてムリ者

上上上画　仙　千舟觀石門

雜

[十三] 客のうちふありのもいぬう変さめて
槐の花の宮をけひしきを
[欠点] 搜神記の故るをさられ槐の木をふ蚕蛹
して義ふ槐安國の王とあるまてやらんも[ヒイキ]それ
より南柯郡とう宮を治る変さあて槐の木れ
ることをりうかそれ落とる老蟻多くむらろ
出るとんて見の吉夫伍のも世よあやしき変の

とあもいまあつく槐の花のさひき宮のうことあ
多てありきあちやあアときつとあ而大出多く

上上上画　美織屋文成

雜

[十三] 本のそしのとれふひときろあ
世のそけもものとんとそいへ
[欠点] 菅家あて白太支役えりとふつく長ふ世を
捨ると而いつへんの仕お本れんのとれのやうふ
かさ巨くくんせれとところ巨く[ヒイキ]よのて
あもれとふ詞よくけ合まこと

上上上画　臨潮軒滿雄

[十三] むつをもつさぬこの夜とろあく
あくくとるさてう邪

憲

[欠点] 古今集ふむつをもくつきあくふあるあり
とあるふよられし仕事ま[欠点]雜ふのあく声の
けんと質巨て夜のあそんといふ詞ふかいる色巨も
自ゆふてきるでんくんく[ヒイキ]近年めつちんん

中新白てゝり本

上上吉

雜

不佞ゝゝゝゝゝ

さゝゝゝゝゝ

亥

土 かいまら〜 考る紙くれうまを足に
うゝゝうくゝつさゝふるゝとゝん

[改元] 石川瑞垣氏つ世を萬の系脈たのひまゝあびる
をうらみてかゝとうぐきをづるとすゝんとせられ〜
手のよ」遊くたゞ世を高ちまに

上上書

文遊樓仲成

亥

土 あゝまゝら我ゆあ
流のむけうゝくゝ世女

[改元] 流のむけうゝくゝ世女のうゝ考を合ふゝみ
あゝらゝゝゝ

哀

[注] 花を見る時はぐるりとまはるとり
ねりとうろハ終日あるくもそ

[注] 論語に終日不違如愚とある文切形をとられて始を見初めるは何ぐるぐるとまはる心いつひふるぐまぐとかさねとをいらかふとうあるる仕手 [ヒイキ] 孔子様の門異見でもあきらめふん哀の道よく人情ふ通ずまこと

上上吉

松窓園美鶴

哀

[注] なのりをする人情よりの情のあやくうんときこえて時とふるり

[注] かなの音のコンときこえるあるふさて八今宵も寂早ろくとらふこと かなふ〳〵時とまぐしるをかうらあまくと結ちく數度のけ作りくそ七ツのかなのあるまぐもこちらかまやせあと言いさ乗り唄と合方ふまぐくこうつるこうろ

上上吉

哀

[注] ちきこのくこの市人ぬまこ花ハ
ちきこの糸くうこえさせよ

蓬莱菴嶌人

[注] 初云ものつきこ吉号ふよられろ〳〵市人のそをろ〳〵 [京生] ぬまこ花ともきあ糸のこ花ハ合せよろふよつそよくぬまろ〳〵

上上

薄菴光門

夏

[注] 漢東亂の古事清盛の家の仕手を目先をかうらを〳〵ふとも〳〵必とけをもんの関あひ三重標猫火のひろ〳〵ろくあひの宮をてらしま〳〵

上上

白川舎有門

秋

[注] 春の吹の宮のまくらハ花宋の
ちらそや手を取のゆくらん

上 夾 松の緑とこしへにかはらぬ色もいとたのもしくこそ侍れ　渉猟庵有貞

上 夾 清の水とこしへにかはらぬ色もいとたのもしくこそ侍れ　渉猟庵有盛

上 夾 いく井業井の井も潜されいとそこむ　六王園里徑

上 夾 なもむつまじき花のいろいろ　渉猟庵守永

上 夾 樹々の梅もまことにうるはしく　壺巷園芳樹

上 夾 ぬちちきこの門の緑の色いまさかり　松樹園主春

上 夾 ちこくうるはしく　其の庭雪好

上 夾 いとうるはしくて　元館亭

上 夾 ちこくうるはしく　文哥堂素庵

上 夾 ちこくうるはしく　緒雲亭東雲

上 夾 ちこくうるはしく　郁庭里素

上 夾 ちこくうるはしく　云程園

上 夾 ちこくうるはしく　渉猟庵冬信

上 夾 ちこくうるはしく　其園舎主冨夫

上 夾 ちこくうるはしく

評曰 此家はお役も重くあき方格別の評判もよろしきまゝ世間のお仕事いろいろもつとめ一同感心いたしまつること

大上上吉

雜

[illegible]

廣園光居

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

△歌 復之 郁

極上上吉

秋

六帖園正雄

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉

雜

東樹園岑頼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そこひとてくこのでくうしをのわうえやとの迎門太の
夜おの面ふれひてかもとこなるふひとてきふるまひさ
つまふちろうきうおとろ奇異ふうしほの動ぞる
声乃きつてといふ荒波やナヒこ力をとろ出てきう
とある所 ヒキ きのちひこいめい月をまつなやうぐわ
つて 月出 ぐ〜どう坊主ふ太のはえう面とたたうぐら
うしろの四えうこ、ふ四と太こひものど 月出 神代巻
ふ諸集人ふ主天乃ふ不離天皇宮墻之傍代武狗而奉
事者也とえ、えとさ〜ふてふてのせうふあうぞれち
ふの志〜と

上上吉 文成操義九

主 思ふ人ふ虎ふそやふよ ふふふ
恋 ふふふふふふ八世のにそう

に禍門 高根とふこをかりふやられふろうれ
虎ふ のぐ ふ ふふふ 教ふふふふふ
ふ ふふふ ふふふふふふふふふふふふ

る人の 詳判ふよのふふふ 詳判ふ
に生れふ ふふふふふふふふふふ 月出

上上吉 掃門塗祓乞磨

主 月花ふまさふふふふふふふふふふふ
冬 ふふふふふふふふふふふふふふふふ

月出 安達原ふ謙杖直方月花ふ雲風さふふい
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ
仕打ふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

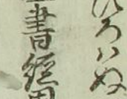
上上吉 新篤因春庭

十二 雑 ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

思ひ落さるものゆゑいろはぬ心ありほとゝの結ぶゆく
やうれまうと[illegible]書經周易不學遍面薔薇惟
煩ある詞をうり出すを不おを病く

至上上吉

雜



十五 つゝしの酒めぐりゆくりも今ハ世ゝ
あまみく人のもてる火あるゝ

[illegible]弓張月入矢西山ハ鬼夜叉無藏中ゞれ[illegible]
あ[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ゝ

[illegible]

上上吉

雜

白頂堂瀧船

[illegible]

功上上吉

文雅樓孫彦

親仁方之郷

[illegible]

[illegible]

上上上画　淺芳庵守弘

雑

[illegible]

上上上書　園文亭喜九

哀

[illegible]

上上上音　清水舎有年

秋

[illegible]

上上上古　蕣蟄社磐樹

雑

[illegible]

十三
浅草尾
緑樹園
武州
柏陰社
孫兎
十五
千種尾
日光
鳳鳴閣
小松
二葉松
光居

姿形之部

大上上吉

冬

大黒屋雛形

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大丈夫ど

上上吉　中万寺屋蔵溪

秋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉

浅櫻庵[illegible]

上上吉

大黒屋瀬川

春

上上吉

大黒屋歌之助

はしらまつのもとにかくしてうほしと【ヒキ】ゑがきうる青柳のあをひやうにて黒へきとそれぞれの
玉屋濃紫
玉屋濃紫
玉屋濃紫

上上吉

春

[illegible]

千柳亭綾彦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上　文

上　秋

上　冬

上　秋

上　冬

上　秋

上　冬

上　秋

上　冬

上　秋

上　冬

竹の屋根　真春

郊居雪

秋園雙竹

清稜層千秋

桃林冬三千歳

栖采雅樂雅

空屋雅文

上　文

上　秋

上　冬

上　秋

上　冬

上　秋

上　冬

上　秋

上　冬

上　秋

上　冬

緑屋子春

旭園輝雅

文園一入

和歌所述懷

上　中　越の海　春祖園言廣

上　京　秋の夕　春友亭牛馬

上　京　おりたつ　拍事　椎

上　発　うき船の　師逝　梅孟

上　秋　竹の葉の　風流園　柱樹

上　中　ふるさと　桃樹園　三子俊

上　発　ふるさと　梅川亭真波

秋　湖月の長夜よりて　松年園一樹

上　京　うき草の　流る

[陸] 此所にて一回出詩し来る所の句を書く
おもしろ柄も蓋いやうの人八分丹れど出来のなかあら
それいろいろ仕ろうろふ人ありろるふりまこと

一 惣巻軸

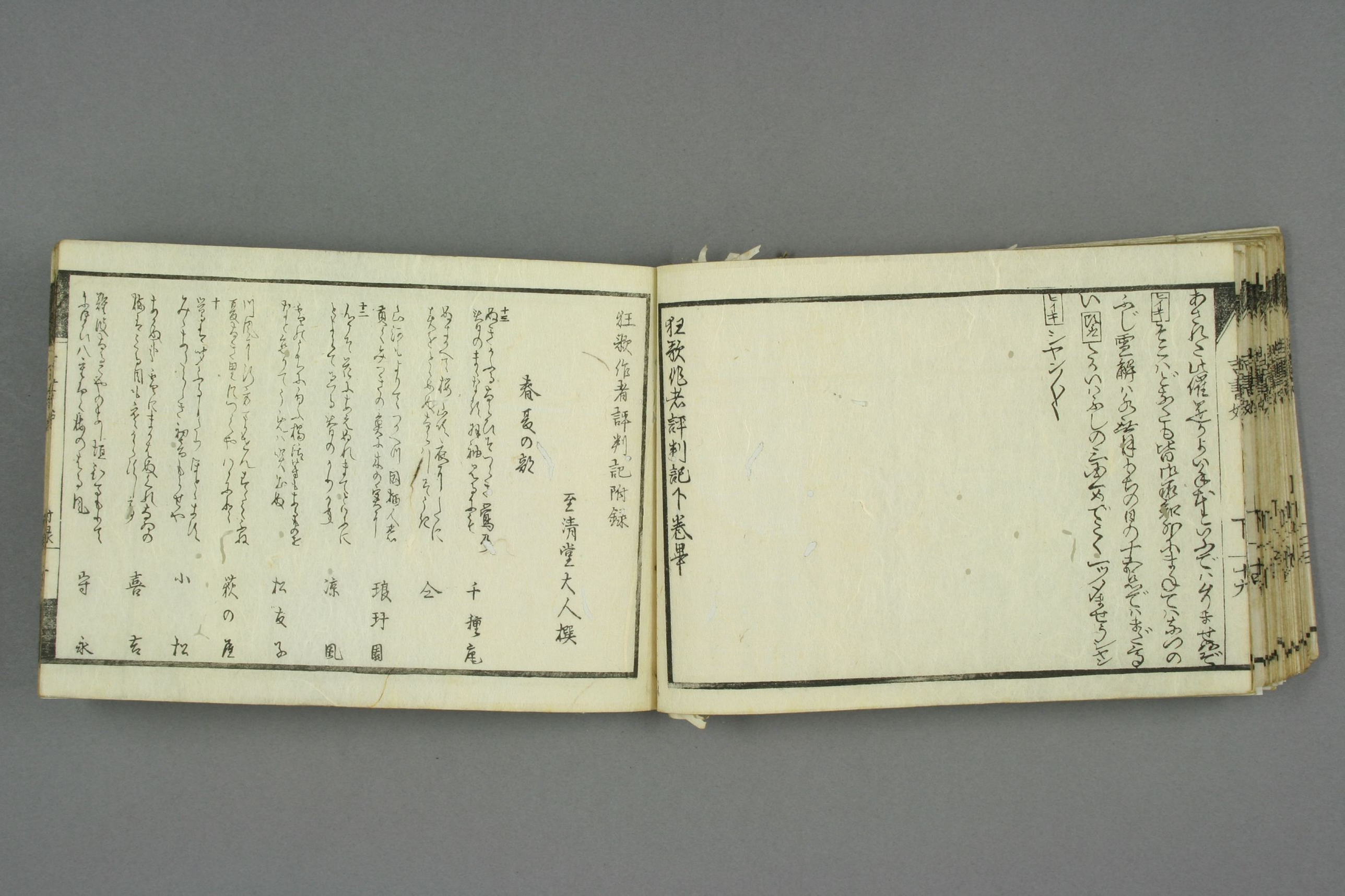
極上上吉　緑樹園幹有

雑　五ツの長の形ふくろと数仲ろ
精をにふもも

[陸] 此所にて巻軸に記した句の就おでふり本
[日] 例主 まつとぐ　[陸] あごのおつるあぎれ
秋の眼目の所に年金　凡仲ろる上まり色

まして堪能の方くはおよみくうへいろりませぬと
兎角初びの流のおわりそうとふハ和のとれ方の
のさゞのいろらぬうえうまもると申すも振向
の古い新らしいとヤスもかまはぬこうる上ゆまえ
よりゞ上手らしいとうるの出合点のまねそやも
さると古おをものまう徳で出をゆうるの歌
本もまおおゞけぶちくゆるて今年をれを
詩の外が筆ふけら五ほして故吳巖酒の親むの
家風をおろうまくはなハえるそ相しうるか仕
行原ゆうしてくだゞほしこそ為まえ紀言文
を盛貴我ふ爰た馬役ふじの俳諧半賀四の
まく歌之助丈の六節ふ空をに着せうとけい
ちるう法師の第三百首の巻物をうこれ歌助
よおしいてきこ有りけるこの一巻ものおうふえんあむ
ちの子綱のふてきそんその巻中ふ記ルとい一百首と
様るるじの第三の人ハ居ちうら在原をちるくこの

かりイこの反業四三條の松本清人深田ふ深海
芝山四居さらまるる名ものこきあ名ゆ ふまよみ
ふせうらひまうらんくうく吟して兵弟徒共ら年
とまるかの巳百首ものそれ程からきあ所くふ
寺せもぞもうハよまざうものおくふきて病
あり出家原在朝ゞふしの中将の西奉ゆう
寺たまいろる出徒経中将首尾ゆく相源ゞ身
をつまうて精をけつきの奥の名ふよふまぶちりに
の巳さハくの次第ナト世ものふくくうときの
とえそふまりし西大出まく 四四 二巻ら跳猫奥の
せうふまう鯨思ア工、盃くれうとうさう蝶ゞ
 四五 これハふらあ以ふくしてこ雲ものう落しゞ(ふ)
ろわうらあ思うまるるとうのかきものぐうくんゞ
まぜちうゞ追入ル 四六 ゆそやこれゞ出家の乱緑
の千秋乐ととゞちうと酒宗まうこ金うほめ
ゞりゞハさゞまこ狂ちゞ月こまのとそれで



あきれさは俗さうよりとうでハなりませぬ
ヒイキ　ちこハどもまくこも皆出来和却わまるてハちのの
ゑじ雪解いろ皆はわちの日の十あるとでハおぐこる
い　ヒイキ　こういこあしのこ家めでこく一ツメ母せうしさ
ヒイキ　シヤン〳〵

狂歌俳諧評判記巻畢

至清堂大人撰

春夏の部

十三

ぬきうつるうちにしたてる袖のまもりれば袖のうちに寫ル　千種庵

ゆきまくて梅の花咲くうちにしたに夜ふかしたる　仝

ふるさとのうちにつくる門梅人老貢くみつるの奥ふかの家ふ　琅玕園

十四

ふるさとの花よりもえぬれまてとうたにもうつるる芳のうつる　涼風

ちるさくらちるふる山ハ梅ばかりもちるものをかすとをうてうぐいすハ　松友子

門風ふう沈方てちるさくらんもちるくる夏ちるさくるとしたれつくるかな　荻の屋

十五

芳もちるうちるうちるう

信濃　度々居　繁姫　望月　里美　誓願　梅香園　望文　真通　通雄　淺綾庵　喜吉

治壽　清成　吉廣　渡瀬　梅早　子亀　花門　梅孫　廣海　弓彌　波逗屋　康村

重孝

二樹

直斎

平

光居

道隆

和枝

清雅

晴京

隆芳

某村

豊の屋

仝

遠梅

麿丸

一位

花遊

仝

東風庵

登梅

邦世

六往園

六徑園
道堯
公
亭
三寛
白藤
天蘇
江居
福緑亭
鶴の屋
支龍
松成

如
教松
松好
賈親
龍化
斐竹
長房
卯吉
支水
義方
滿斯
菜旅

秋冬の部

十三

燕栗園大人撰

春垣　望屋　照信　若樹　守一　道文　糸清　清明　至清堂

孫　光

鳳鳴閣
杉門
喜吉
小松
光門
三千年
ちとせ
一入
浅芳庵
便し居
萩の屋
永良

遠友
公
通旅
浅野屋
光秀
公
ち歳
公
蓬門
百種
梅源

佐々
公
奥波
廣波
弓猟
一方
公
紫遠
善丸
肥後
良弘

廣村
実教
重教
公
和泉
公
二嶋
光居
大道
実波
茅野
豊の屋

[illegible]　豊の屋
[illegible]　細[illegible]
[illegible]　廣[illegible]
[illegible]　義[illegible]
[illegible]　仝
[illegible]　六狂園
[illegible]　遠[illegible]
[illegible]　仝
[illegible]　栗園
[illegible]　長[illegible]
[illegible]　義[illegible]
[illegible]　仝

[illegible]　真春
[illegible]　春山[illegible]
[illegible]　亀雄
[illegible]　直路
[illegible]　鶴[illegible]
[illegible]　亀寿美
[illegible]　鶴の屋
[illegible]　松成
[illegible]　仝
[illegible]　松[illegible]
[illegible]　[illegible]元
[illegible]　蘭

西義
友水
満龍
千流
鶴茶
宇佐
黒麦
一節園
義猿
宇満

柳葉屋
秀卯
光門
仝
仝
九鶴
有年
豊田舎
二樹
小松如
菜宇
仝

志賀延

仝

花刀自

一入

仝

所馬

千年

六種園

雅楽旋

仝

岩成

文成

仝

瀧見

西蔵

松義

清瀧

仝

豊田舎

廣長

南仙子

羽磨

智永

梅舟

梅舟
素紋
秋寿
梅香園
仝
冨留巣
照蔭
仝
仝
宵一
小竹の門
仝

東川
遊栗園

花廼屋大人模

戀雜之部

十二

梅刀自
喜吉
喜丸
源風
黄葉亭
爲成
徒麦
姫文

春夏
千柳亭
芝門
頼益
吉
有盈
有門
角人
千年
房也
孟村
豊の屋

兎
東風亭
谷簿
松好
孔子
一節園
有年
素の門
六種園
粒糸雅
仝
石水

一十三書始

[illegible] 渡霧庵

[illegible] 千遠法師

[illegible] 支考

[illegible] 恩信

[illegible] 清水

[illegible] 花迎亭

豊庵

物名花言盡 浅瀬庵撰

十五

[illegible] 花庵

十三

[illegible] 六朶園

十二

[illegible] 花屋

[illegible] 深樹園

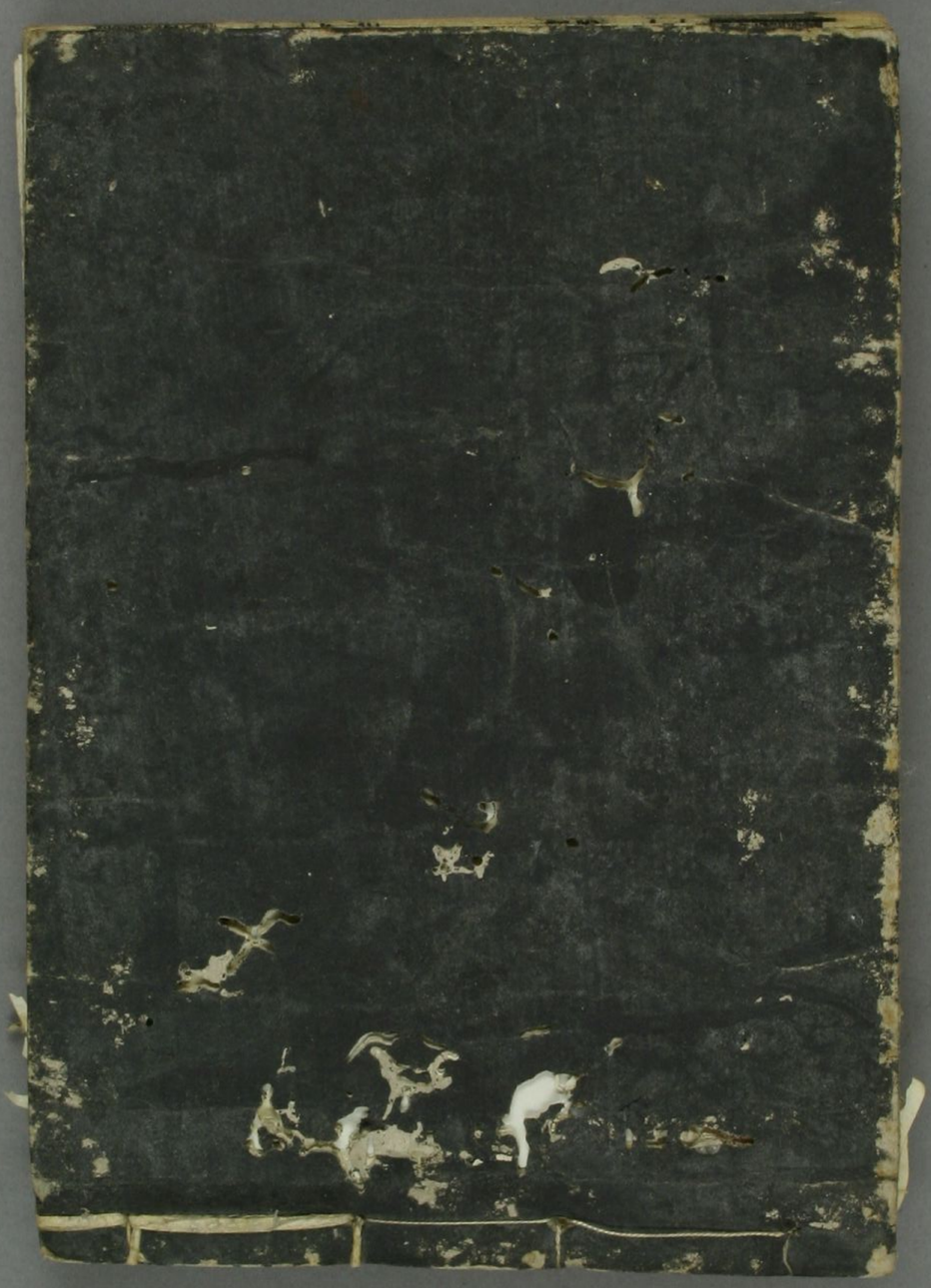
[illegible] 白柏園

[illegible] 柳園

[illegible] 文石樓

道成寺

[illegible] 同

忠臣蔵

[illegible] 湖濃庵